

春里地区懇談会での主な意見と回答

日 時 平成29年6月24日（土）午後5時～6時10分
場 所 東建塩河カントリー倶楽部
出席者 34人

【質問】豪雨災害は自宅待機が妥当であり、第一次避難所である春里公民館の避難所運営職員は5人体制で十分と思われるが、地震などの大災害で二次・三次避難所を開設した場合についてお尋ねします。

①市内の二次・三次避難所にも職員の配置はされるのか。

【回答】二次・三次避難所には、近隣居住の職員を2名ずつ配置します。一次避難所を含め総計128名体制で配置しています。

【質問】

②二次・三次避難所の鍵は誰が持っているのか。視察した益城町では近隣住民に鍵を預けている。

【回答】市の施設に関しては施設管理を担当する職員が鍵を管理し、配置しています。小中学校については、学校の近くに住む先生（概ね3人）を避難所開放責任者として定めています。各連絡所に保管している学校開放用の鍵を利用できる体制も整えています。

各高等学校については、学校の近くに住む先生が避難所開放責任者として、避難所を開放することになっています。

旧名城大学都市情報学部については、24時間管理人が常駐しています。

近隣住民に鍵を預けることは、可児市では対応していません。これにつきましては、紛失対策や管理者の変更時、引継ぎ等確実に責任を持って鍵を管理していただくことが大事ですので、条件が整えば合鍵をお渡しすることも可能と考えます。

【意見】

参考までに益城町には「行政区囑託員」という制度がある。

町の自治会加入率は100%である。

【質問】

- ③避難所運営訓練の計画はあるか。
- ④小中学校の避難所運営訓練は実施されるのか。

【回答】この4月に自治連絡協議会で避難所運営訓練の希望をとりました。今年度は帷子と桜ヶ丘ハイツで実施予定です。HUG訓練につきましても、各連合会で実施していただきたいと要望しております。

小中学校での運営訓練は行われておりません。来年度の防災訓練については、南海トラフ地震を想定した大規模訓練を想定しており、全避難所での運営訓練を実施していきたいと考えています。

【意見】

- ⑤春里小学校、海洋センターの避難所機能の充実をお願いしたい。

【回答】災害時には限られた職員が様々な事象に対応する必要があります。風水害の場合、あらかじめ気象情報などから避難の必要なレベルに到達する可能性があるかどうかの判断がある程度できることなどから、市内の14箇所の公民館を一次避難所として指定したものです。改定前の地域防災計画では、海洋センターを一次避難所として位置づけていましたが、台風の接近や大雨による避難所の開設については、公民館14箇所を一次避難所として開設してきており、実態に即した位置づけとして改定しています。

避難所の開設時期は、風水害、地震、その他の災害種別によって異なり、風水害は第一次から第三次と災害の規模や避難者の収容状況に応じて順次開設していきます。地震では震度5強以上が発生した場合には、43箇所全ての避難所を開設できる体制としています。

地震が起きた場合、全てが平等に壊れるわけではありません。可児市は500名の職員数です。限られた近くの職員をどこへ配置するかには差が出てきます。新しい団地など耐震的にはまだ大丈夫という所には、非常時にある程度の不便は覚悟していただいて、必要と思われるところに人員を集中します。そこで地域の皆さんからの情報、災害対策本部の情報から臨機応変に対応していきます。しばらくは皆さんにご不便をかけますが、お互い様でがんばってほしいと思います。このようなことを前提にしながら、来年の防災訓練は本当に地震が起きた想定で全避難所運営訓練を行いますので、ご意見をいただけるとありがたいです。

【質問】土砂災害、山崩れ、ため池の堤体崩れを想定したハザードマップ作製には、専門的な見地が必要と思われるので、専門家の派遣をお願いしたい。

【回答】市の建設部等の職員は要請に応じて派遣が可能です。まずは各連絡所長にお問い合わせください。自治会から直接ご要望いただければ、可茂土木事務所河川砂防課も派遣は可能です。自治会長研修会でファシリテーター役を務めた、防災の会の皆さんもアドバイスが可能です。

【質問】災害時、下水道が使えなくなったときのために、仮設トイレをどの程度準備しているのか。また、汲み取り、給水はどのようになるのか。

【回答】仮設の簡易トイレは540基です。そのうちマンホールトイレは31基、障がい者対応のトイレは30基です。それ以外にトイレ袋を16,600袋（避難者の1日分の袋）用意してあります。今年度同数を新たに購入します。仮設トイレ等の調達に関する協定により災害用トイレの不足分は調達可能となっています。汲み取りは処理業者3社に依頼、排水に関しては賞味期限切れの飲料水が各避難所に備蓄しており、トイレ用の排水として利用できる状況です。小中学校には防災倉庫に可搬ポンプを設置しており、プールの水をトイレ用に供給可能となっています。給水に関しては、水道管に被害があった場合に緊急遮断弁の作動状況に応じて、各配水池、配水場から確保することも想定しています。

【質問】毎年消防団員の確保には大変苦勞している。地区に適齢者がいない自治会の団員確保について、将来の消防団のあり方について、市長の考えを示してほしい。

【回答】常備消防の足りない部分を補う非常備消防として欠かせない組織です。火災予防啓発や消火活動だけでなく、災害時における担い手として消防団の位置づけは非常に大きいものですので、市としては現体制を維持していきたいと考えています。団員の確保については、春里に限らず全ての地域における共通課題です。市としては団員確保のためのイメージアップに取り組んでいます。チラシ、広報、ケーブルテレビで特集番組を組んだり、新聞、成人式などでチラシを配布しています。また操法大会では子ども向けの体験コーナー、飲食ブースなどを設置しています。それらの効果もあって、従前は団員と関係者

だけだったのが、最近は家族や子ども、一般の方も来場するようになり、大会そのものも盛り上がっている状況です。消防団の詰め所についても車庫の改築、空調機器の整備など環境を改善しています。出初式も最近は室内開催にしており、団員が活動しやすくなるよう環境を改善しています。処遇については、報酬年額、出動手当を26年4月から引き上げています。

また事業所に対しては消防団の協力事業所表示制度にご協力いただくよう説明しています。学生の入団のきっかけになるよう、学生消防団活動認証制度も新たに設けました。岐阜県でも支援制度を進めており、協力事業所の支援減税制度、「ありがとね！消防団・水防団応援事業所表示制度（優遇カード）」も新たに始めています。市としても消防団のイメージアップを図りながらご理解をいただき、できるだけ現体制を維持しながら地元地域の皆さんに協力をいただき団員確保をお願いしたいと思っております。

【意見】

- ・名古屋に勤めていると訓練に来られないので、OBの方が手伝っている。他市町村に聞くと、団員20名そこに10名のOBが残って、消防操法訓練や消火活動などを行っている。団員の減少を食い止められるよう検討してほしい。
- ・職員の地元採用や遠方の職員を採用して可児市に住んでもらうなどして、非常時に割り当ててほしい。
- ・該当者そのものがいなくなってしまう。何とか地元で確保してほしいという市の意向も分かるが、現実には難しい。何らかの手当てをしていかないと、その放置が消防団そのものの機能をなくす。現状の問題と手当てを検討してほしい。

【回答】大変な問題ですが、都市部のように常備消防のみにするとお金がかかりますし、消防団だからこそできる丁寧な対応はできなくなります。地域の皆さんの意識が大事です。消防団だけが活動するのではなく、非常時応援隊のような消防団OBを中心にした組織など、大きな火災などに手伝うような仕組みが必要になります。自分たちの地域をどうしていくか議論をしていただくようお願いいたします。

消防団に入った人は、ほとんどがやってよかったと言ってくれます。入ってみてよかったという生の声を、対象の人やその親たちに伝えていきたいと思えます。また、転入された方たちも、見聞を広げ地域に溶け込む方法を考えていきたいと思えます。

【その他】県道善師野多治見線と市道 23 号の交差点で事故が多い。横断歩道がないところを小学生が横断している。なおかつ県道の狭い所を通学する。規制が難しいが、信号機がないがための事故が起きているので、毎回要望を出している。信号機の付け替えや新設など支援をいただきたい。

【回答】道路については要望をいただいております、子どもの安全が第一としています。信号は警察がつけますので、交安委員会にお願いするしかないので、継続して自治会要望として対応させていただきます。